

科目名	建築設計製図Ⅴ						
科目名(英)	Architectural design drafting IV						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	隈 道章		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	敷地等の条件を与えて、第1課題(幼稚園)、第2課題(図書館)についてコンセプト、基本図の作成等を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○				幼稚園、図書館の設計において重要な事項を説明出来る		
	○				幼稚園、図書館の設計においてエスキスを進めることが出来る		
	○				基本図(平面図、断面図、立面図)の作図が出来る		
テキスト・教材 参考図書	新しい建築製図 学芸出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1課題(幼稚園)の課題説明					
	2	コンセプトプランニング			建築雑誌等で幼稚園に関する資料の収集		
	3	エスキス			収集した資料の分析		
	4	平面図(1)			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	5	平面図(2)			進捗状況を指導教員に報告する		
	6	断面図			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	7	立面図			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	8	詳細図			進捗状況を指導教員に報告する		
	9	第2課題(図書館)の課題説明					
	10	コンセプトプランニング			建築雑誌等で幼稚園に関する資料の収集		
	11	エスキス			収集した資料の分析		
	12	平面図(1)			進捗状況を指導教員に報告する		
	13	平面図(2)			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	14	断面図			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
15	立面図			進捗状況を指導教員に報告する			
評価方法	(1)提出課題の完成度 (2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません) ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品の提出枚数		○				80%
	作品の完成度		○				20%
履修上の注意	①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合 ②出席回数が授業回数の2/3に満たない場合 ①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない ※参考(提出枚数について):S評価:すべての課題を提出 A評価:提出枚数が全体の9割以上 B評価:提出枚数が全体の8割以上 C評価:提出枚数が全体の7割以上 D評価提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない						
	※提出枚数の評価に加え、図面の仕上がりが具合により評価は上下します。						

科目名	建築設計製図Ⅵ						
科目名(英)	Architectural design drafting Ⅵ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	隈 道章		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	各自がテーマを決めて、既に修得した知識を基に自由設計を行う						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○				設計に必要な資料を収集できる		
	○				コンセプトに基づきプランニングすることが出来る		
	○				計画したプランを図面化することが出来る		
	○				作品を分かりやすくプレゼンすることが出来る		
テキスト・教材 参考図書	新しい建築製図 学芸出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	課題の内容説明/主用途の設定					
	2	実例研究 (幼稚園)			建築雑誌等で幼稚園に関する資料の収集		
	3	敷地設定/現地調査			収集した資料の分析		
	4	計画コンセプトの検討とチェック			収集した資料の分析		
	5	基本設計(1) 平面、立面、断面のエスキス検討			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	6	基本設計(2) 平面、立面、断面のエスキス検討とチェック			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	7	配置図の作図			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	8	各階平面図の作図(1)			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	9	各階平面図の作図(2)			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	10	各階平面図の作図(3) チェック			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	11	断面図の作図(1)			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	12	断面図の作図(2) チェック			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	13	立面図の作図、チェック			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
	14	外観パースの作成、チェック			課題の進捗状況に応じて、課題を進める		
15	プレゼンテーション、講評			課題の進捗状況に応じて、課題を進める			
評価方法	(1)課題の提出内容 (2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません) (3)プレゼンテーション ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題の提出枚数		○				70%
	作品の完成度		○	○			20%
	プレゼンテーション		○	○			10%
履修上の注意	①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合 ②出席回数が授業回数の2/3に満たない場合 ①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない ※参考(提出枚数について): S評価:すべての課題を提出 A評価:提出枚数が全体の9割以上 B評価:提出枚数が全体の8割以上 C評価:提出枚数が全体の7割以上 D評価提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない						
	※提出枚数の評価に加え、図面の仕上がりが具合により評価は上下します。						

科目名	建築計画Ⅲ						
科目名(英)	Architectural Planning Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	深野木 隆		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計(意匠)		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	・劇場、集会施設、老人ホーム、体育館等を計画する上での考慮すべき事項を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				事務所ビルを計画する上での構成・要件・形式の説明が出来る	
	○	○				劇場を計画する上で基本的事項(客席・舞台の形式・構成要素・配置計画)の説明が出来る	
	○	○				百貨店・スーパーマーケットの基本的事項(種類・配置計画・店舗の構成)について説明出来る	
	○	○				宿泊施設を計画する上での基本的事項(部門・構成要素・動線計画)が説明出来る	
テキスト・教材 参考図書	建築計画 実教出版 オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス6-1規模計画と経済効率				予習・復習することを心がける。	
	2	6-2事務所ビル 事務所ビルの変遷				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	3	6-2事務所ビル 事務所ビルの計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	4	6-2事務所ビル 各室計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	5	6-3劇場・音楽ホールの変遷				前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。	
	6	6-3劇場・音楽ホールの計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	7	6-3劇場・音楽ホール 客席・舞台の計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷				前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。	
	9	6-4百貨店・スーパーマーケット 大規模小売店舗の計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	10	6-4百貨店・スーパーマーケット 売り場の計画・駐車場				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	11	6-5 宿泊施設	定義・種類・分類・機能・基本条件			前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。	
	12	6-5 宿泊施設	構成要素・部門・所要室・規模			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	13	6-5 宿泊施設	ゾーニング・動線計画宿泊施設			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	14	6-5 宿泊施設	6-6 駐車場			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
15	総括 I				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築設備Ⅱ						
科目名(英)	Building FacilitiesⅡ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山崎 洋一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設備設計全般		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				給排水衛生設備・電気設備の役割を説明できる	
	○	○				給排水衛生設備・電気設備の機器構成を列挙することができる	
	○	○				給排水衛生設備の給水・排水方式について用途の違いを説明できる	
	○	○				電気設備の相互関連性(受変電幹線設備と動力設備、自家発電と蓄電池)について説明できる	
○	○				給排水、電気(照明)設備に関連する数値を計算式により導き出せる(水量、照度等)		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座「建築設備」市谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	給水衛生設備とは 給水設備(水道施設、水道水水質)			授業内容の復習		
	2	給水設備(給水方式)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	3	給水設備(使用水量と給水圧力)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	4	給水設備(上水の汚染と防止・揚水ポンプ能力・管径・管材)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	5	給水設備、ガス設備			履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問		
	6	排水通気設備(排水通気設備の目的・排水の種類と方式・トラップ・配管・排水槽)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	7	排水通気設備(通気方式・間接排水・雨水排水・配管材料・口径計算)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	8	排水処理設備(目的・評価手法・種類と特徴・再利用施設)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	9	衛生器具設備(概要・種類・設置計画・ユニット)			履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問		
	10	消火設備(消火の基本・消火設備の種類・作動の仕組み)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	11	電気設備とは(役割と構成)受変電幹線設備(受電設備)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	12	受変電幹線設備(幹線設備)動力設備(概要)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	13	自家発電・蓄電池(種類と概要・無停電電源装置)			履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問		
	14	照明コンセント設備(照明器具・コンセント)			授業内容の復習		
15	まとめ			授業内容の復習			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	構造力学Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	黒木 文雄		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計(構造)、専門学校		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・断面の性質(断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数、断面二次半径)について学ぶ。 ・応力度について学ぶ。 ・部材の変形(梁のたわみ、柱の座屈)について学ぶ。 ・不静定構造について学ぶ。 						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				断面の性質(断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数)が計算できる。	
	○	○				各応力度が計算できる。	
	○	○				梁のたわみ、柱の座屈が計算できる。	
	○	○				不静定構造物が計算できる。	
テキスト・教材 参考図書	建築構造設計 実教出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	断面の性質について、断面一次モーメントと図心				授業内容の復習	
	2	断面二次モーメント				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	3	断面係数、断面二次半径				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	4	応力度について、垂直応力度の算定				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	5	曲げ応力度とせん断応力度				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	6	応力度練習問題				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	7	梁のたわみ				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	8	座屈				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	9	不静定構造について				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	10	剛度、剛比について				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	11	固定モーメント法(1)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	12	固定モーメント法(2)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	13	固定モーメント法(3)				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	14	多層ラーメンの応力				授業内容の復習	
	15	まとめ				授業内容の復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築構造Ⅲ						
科目名(英)	Architectural structure Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山 文彦		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計(意匠)		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	鋼構造の成り立ちと構造的特性、基礎の種類と基礎構造の特性について学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					鋼材の機械的性質について説明できる	
	○					鋼構造の特徴を説明できる	
	○					直接基礎と杭基礎の違いを説明できる	
	○					直接基礎と杭基礎の特性について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	建築構造 実教出版 オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	構造の特徴と構造形式			授業内容の復習		
	2	鋼と鋼材			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	3	鋼材の接合(1)			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	4	鋼材の接合(2)			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	5	基礎			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	6	骨組(1)			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	7	骨組(2)			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	8	仕上げ(1)			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	9	仕上げ(2)			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	10	軽量鉄骨構造と鋼管構造			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	11	鉄骨鉄筋コンクリート構造			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	12	基礎と地盤			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	13	直接基礎			授業内容の復習と次回授業範囲の予習		
	14	杭基礎			授業内容の復習		
15	まとめ			授業内容の復習			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				50%
	小テスト		○				20%
	宿題・レポート		○				30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築施工Ⅱ						
科目名(英)	Building Construction II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高野 繁		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計(意匠)		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	建築工事標準仕様書に基づき、仕上げ工事の設計・工事の実施例を参考に講義を進める						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる	
	○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る	
	○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)	
テキスト・教材 参考図書	建築構造 実教出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	防水工事(アスファルト防水・塗膜防水)				授業内容の復習	
	2	防水工事(シート防水等)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	3	石工事(石全般)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	4	タイル工事(タイル全般)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	5	木工事(木材・合板・集成材)				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	6	木工事(床組・天井)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	7	屋根・とい工事(屋根・とい全般)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	8	金属工事(軽量鉄骨天井地下・軽量鉄骨壁地下)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	9	金属工事(金属成形板張り・金属製品)				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	10	左官工事(モルタル塗り)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	11	左官工事(床コンクリートこて仕上げ)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	12	建具工事(アルミニウム製建具・鋼製建具・ステンレス製建具)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	13	建具工事(木製建具・建具金物)				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	14	建具工事(シャッター・扉の形式・建具枠組)				授業内容の復習	
	15	まとめ				授業内容の復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築法規Ⅱ						
科目名(英)	Building regulations Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹下 幸栄		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計(意匠)		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	2級建築士学科試験合格レベルの建築法規に関する知識を修得し、より専門的かつ実践的な建築計画に取り組める力を養う						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。	
	○					建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。	
	○					建築法規に規定する事項を学び、関連法令と合わせた順守すべき事項を説明することができる。	
	○					実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編 ・総合資格学院発行 平成31年度版 2級建築士試験 学科 厳選問題集 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	内装制限Ⅰ(①内装制限を受ける建築物、②内装制限を受ける建築物の内装)			事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	2	内装制限Ⅱ(①内装制限を受ける建築物の内装、②内装制限を受けるその他の部分)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	3	構造計算・構造強度Ⅰ(①構造計算による安全性の確認を擔するもの、②荷重および外力、③構造部材等)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	4	構造計算・構造強度Ⅱ(①木造軸組みの算定)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	5	構造計算・構造強度Ⅲ(①木造、補強コンクリートブロック造、②鉄骨造、③鉄筋コンクリート造)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	6	敷地等と道路(①道路の定義、法第42条第2項道路、②位置指定道路の基準、③接道条件)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	7	用途地域(①用途地域の種類(法第48条、法別表第2)、②用途地域の建築制限)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	8	建ぺい率(①建ぺい率、②2以上の地域に属する場合の建ぺい率、③建ぺい率の限度が緩和される場合)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	9	容積率Ⅰ(①容積率、②容積率の限度、③敷地が制限の異なる地域にわたる場合)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	10	容積率Ⅱ(①特定道路による幅員の緩和、②容積率対象外の床面積)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	11	高さ制限Ⅰ(①低層住居専用地域における建築物の高さの限度、②道路高さ制限)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	12	高さ制限Ⅱ(①北側高さ制限、②隣地高さ制限)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	13	日影規制(①日影による高さの制限、②日影による中高層の建築物の高さの制限)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	14	建築士法(①建築士法総則・免許等、建築士の業務、②設計受託契約等、③建築士事務所)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
15	その他関係法令(①高齢者、障害者等移動等円滑化の促進に関する法律、②住宅の品質確保の促進に関する法律)			定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート	○	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築CAD設計演習Ⅳ						
科目名(英)	Computer Aided Architectural Design Ⅳ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田邊 聡		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築CADディレクター		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	AutoCADの基本操作を学び、建築図面の作図方法を理解し、実務において効率的な設計や作図ができるようになる方法とコマンドの使い方を学びます。正しい図面の表記を学びながら作図を実践し、即戦力として活躍できるための技術を身につける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○			Archicadの初期設定・環境設定を行える		
	○	○			Archicadの基本操作(レイヤ、クラス設定)ができる		
	○	○			Archicadの基本操作を活用し、簡単な平面図(1F平面図)を作成できる		
	○	○			Archicadの基本操作を応用し、立面図を作成できる		
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	概要説明 Archicadとは?					
	2	Archicad初期設定と環境設定 /レイヤ・クラス設定			作図コマンドの習得		
	3	基本操作 基本ツールの説明、作図方法の説明			作図コマンドの習得		
	4	課題「平面図の作図①」 作図のための1/100用紙設定			各課題の進捗状況に応じて課題を進めること		
	5						
	6	課題「平面図の作図①」 1F平面図			各課題の進捗状況に応じて課題を進めること		
	12						
	13	課題「平面図の作図②」 1F平面図を利用した作図方法			各課題の進捗状況に応じて課題を進めること		
	16						
	17	課題「平面図の作図②」 2F平面図			各課題の進捗状況に応じて課題を進めること		
	20						
	21	課題「立面図の作図①」 平面図を利用した作図方法			各課題の進捗状況に応じて課題を進めること		
	23						
	24	課題「立面図の作図②」 東南立面図の作図			各課題の進捗状況に応じて課題を進めること		
	25						
26	各自プランニング作図① 2人1組にてヒアリング、プランニング			各課題の進捗状況に応じて課題を進めること			
27	各自プランニング作図① Vector Worksの操作の復習・質問			各課題の進捗状況に応じて課題を進めること			
28	各自プランニング作図① Vector Worksで図面化(平面図)			プレゼンテーションの準備			
29	各自作品のプレゼン			プレゼンテーションの準備			
30	プレゼンについての講評、ディスカッション						
評価方法	(1)提出課題の完成度 (2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません) ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品の提出枚数		○	○			80%
	作品の完成度		○	○			20%
履修上の注意	①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合 ②出席回数が授業回数の2/3に満たない場合 ①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない ※参考(提出枚数について):S評価:すべての課題を提出 A評価:提出枚数が全体の9割以上 B評価:提出枚数が全体の8割以上 C評価:提出枚数が全体の7割以上 D評価:提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない ※提出枚数の評価に加え、図面の仕上がり具合により評価は上下します。						